

次の企業と FIVE STAR MAGAZINE は士業界を応援しています。

Powered By
ご協賛企業



ストライク

NOTHING IS
impossible



特集

ChatGPT は**実務**で使え！

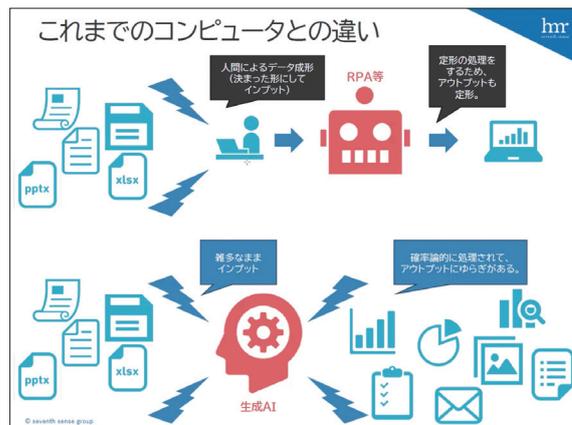
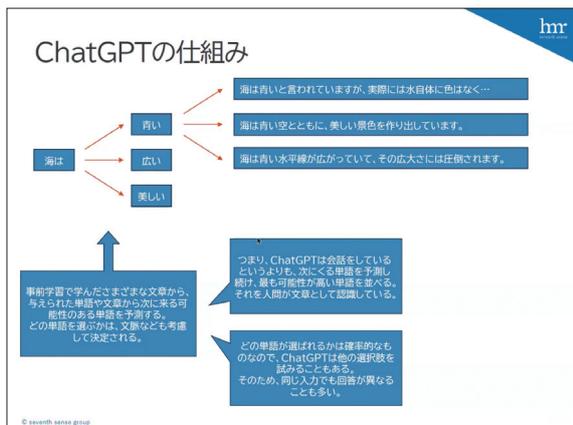
こんな仕事は
ChatGPTで
ちゃちゃっと
やっちゃう！

“先進”税理士は、 ChatGPTをこう使っている!!

取材／セブセンス税理士法人（東京都台東区）ディレクター 公認会計士・税理士 大野修平氏

前号の緊急巻頭インタビュー「ChatGPT-4o OMNIの衝撃」に引き続き、再びセブセンス税理士法人ディレクターで、先端テクノロジーに精通する大野修平氏に登場いただいた。同氏に聞いたのは、ChatGPTの税理士業務での具体的な活用シーン。同氏はそれを「無限にある!」と答えた。(文・武田司、GPT-4o)

ChatGPT はとっても「人間臭い」。そういうものだとして理解して使いこなせ!



一社内でChatGPTをほとんど使ったことのないスタッフに使わせると、うまく動かせない時に同じような質問をずっと繰り返していたりします。そういう光景を見ているとChatGPTも現実世界と同様に、リーダーシップやコミュニケーション能力の高い人はうまく動かせて、そうでない人はうまく動かせない傾向があるように思っています。だから、実際に使ってみて感じたのは、ChatGPTが非常に「人間臭い」ということです。

大野：そもそもChatGPTの仕組みは、ある単語の次に来る言葉を確率論的に選んで、文章を生成しています【スライド(左)】。ChatGPTが行っていることは、単語をある種ランダム的に並べて、確率論で推定しながら、文章を作成しているのです。そうやって

生成された文章から、人間が意味を読み取っていきます。

ChatGPTは単語を並べているだけですが、人間がそれを見ると文章がそこに書かれていると認識し、その文章が実際に意味が通っているために、「ChatGPTには知能がある」ように感じるわけです。

よくよく考えると、私たちもChatGPTと同じようなことを行いながら、文章を作成しています。人間もランダムに言葉を並べていきながら会話をしています。つまり、こうした会話のやり取りは非常に人間的なものであり、人間だからこそできるものだったということです。

だから結局これは、人間の能力の産物なのだと思います。ChatGPT の能力は素晴らしいものですが、それと同時に人間の能力も素晴らしいのだと思います。

—なるほど、どうりで人間臭く感じるわけですね。

大野: ランダム性があることは実に人間的ですが、私たちはパソコンを目の前にするとそのことを忘れてしまいます。

これまでコンピューターは、Excel であっても RPA であっても、決まったインプットをしたら、決まったアウトプットを返してくるツールでした。インプット時には、人間が整形したものを入力していくのが当たり前でした。

しかし、ChatGPT を始めとする生成 AI はそうではありません【スライド (前ページ右)】。わかりやすい例で言えば、Excel での表計算です。Excel の表計算でセルに入れるものはアラビア数字でなければなりません。もし、漢数字をセルに入れたら、計算ができずにエラーを返してきます。Excel に限らず、これまでのコンピューターはそのように動いていました。

しかし、ChatGPT では数字の「1」と漢数字の「二」と平仮名の「さん」を足すこともできます。ただし、その回答がいつも正しいとは限りません。

ChatGPT と付き合っていくなら、こうした不確実性をも受け入れて、付き合っていかなければなりません。プロンプト (ChatGPT に指示を出すための命令文) を入力しても思ったように動かないときがありますが、そうしたことも許容しながら利用していく必要があります。

—ここでプロンプトの問題が出てくるのですが、プロンプトでは、プログラミング的な思考で記述する場合と、自然言語で記述する場合があって、これらをどう捉えたらいいのか悩んでいます。

大野: どのようにプロンプトを記述するかは、非常に興味深い話です。私は、現在は過渡期にあると思っています。プログラミング的な「プロンプトエンジニアリング」と呼ばれる記述方法は、まだ生成 AI が発展途上だから必要とされているものだと思います。

先に行く例としては Google ですね。Google 検索ではかつて、さまざまな検索テクニックが使われていました。スペースを入

れて検索する「複合検索」は今でも使われていますし、ほかにもマイナス記号を入れて単語を除外したり、ダブルクォーテーションで括って特定の単語を必ず含めて検索させたりするなど、さまざまな検索テクニックがあります。

しかし現在では、Google の検索能力が飛躍的に向上しているので、「手で浮くカエルっぽいヨガのポーズ」などと自然言語で検索すれば、Google はそれを「ヨガのカラスのポーズ」だと理解して、検索結果を表示してくれます。しかも動画で。

Google はこうした研究を先んじて進めているわけですが、ChatGPT のプロンプトの世界でも同じことが近い将来に起こると思います。プロンプトエンジニアリングを意識しなくても、ChatGPT とやり取りできる世界がすぐにやってきます。

ですから、プロンプトエンジニアリングを極める必要はなく、上手なプロンプトが書けないからと言って ChatGPT を使わないくらいなら、下手なプロンプトでも良いからたくさん触って、使っていった方が良いと思います。

—プロンプトは、自然言語で良いということですね。

大野: カタコト言葉でもいいです。前提条件などをいちいち入れなくても、ChatGPT が分かっているなと思ったときに、そうした条件や制限を付け足して伝えていけばいいのです。そうしたことを後出しで言うと、相手が人間なら嫌な顔をされますが、ChatGPT はそうはなりません (笑)。

—そうは言わないけど、「あ、今嫌そうな顔したな」とか、「今舌打ちしたろ」とか、そんな感じがするときがありますよね。

大野: そう感じられる人は、まさに ChatGPT との付き合い方がうまいのだと思いますね。ChatGPT がどういうところに苛立ちを感じているのか、何を自分が伝え損ねたからそうなったのかが分かるようになっていけば、だんだん上手に動かせるようになっていくと思います。

—先ほど、これまではコンピューターは間違わないものだったというお話がありましたが、ChatGPT については、間違える可能性があるという認識で、活用して行った方が良いということですか？

大野: そうです。だからインプットもアウトプットも、非常に人間的でファジーなんです



セブンセンス税理士法人（東京都港区）
公認会計士・税理士、ディレクター
大野修平

大学卒業後、有限責任監査法人トーマツへ入所。金融インダストリーグループにて、主に銀行、証券、保険会社の監査に従事。トーマツ退所後は、資金調達支援、資本政策策定支援、補助金申請支援などで多数の支援経験を持つ。また、スタートアップ企業の育成・支援にも力を入れており、各種アクセラレーションプログラムでのメンタリングや講義、ピッチイベントでの審査員や協賛などにも精力的に関わっている

よね。正解か不正解か分からないけれど、とにかく ChatGPT は一定の答えや成果物を生成してくれます。

ただ、ChatGPT は一般の人より知識の量が膨大に多いので、一般の人より正しいことを言っている可能性が高くなります。

一だから、使い方にも用途にも幅がありながら、限定される部分もあるように思うのですが、土業の業務で言うところのどのような使い方をしていけばいいのでしょうか？

大野：例えば社労士業務の給与計算で生成 AI を使うのは、現時点では難しいと私は思っています。給与計算は間違えることができない業務なので、そうしたものにおいては Excel や専門のソフトを使った方が良いと思います。

一方で、就業規則は Excel に読み込ませることはできないし、仮に読み込ませたとしても何の処理もできませんよね。でも、生成 AI に就業規則を読み込ませて「この就業

規則にフレックス制度は規定されていますか？」と聞けば、「第何条に規定があります」とか「コアタイムはこうなっています」などと教えてくれます。

税理士業務の中にも、同じような活用領域があります。いわゆる数字を扱う業務では、まだまだ RPA や Excel、あるいは専用のソフトの方が得意なのですが、税理士業務の中でも、ある程度の揺らぎが許されていたり、アウトプットにランダム性があっても問題がなかったりする業務があります。

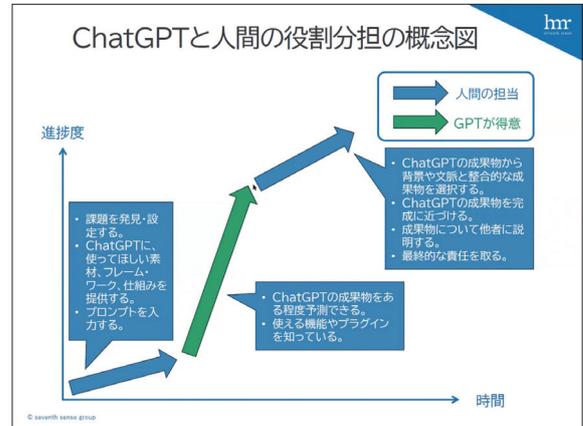
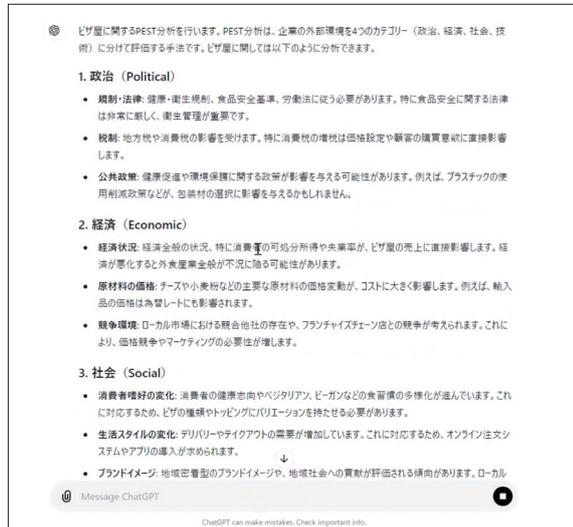
税理士業務では数字における揺らぎは許されませんが、言葉を使う業務では生成 AI を活用できるシーンが多くあると思います。例えば、事業計画書や補助金の申請書を作成したり、経営戦略やビジネスモデルを考えたりする中に、多くの活用シーンがあると考えています。

こんな仕事は
ChatGPT をちゃちゃと
やってくれ！

ChatGPTの 使い方

How to use ChatGPT

PEST分析を行う



一では、実際にどういったシーンで、どのように使っているのか、事例も含めて教えていただけますか？

大野:例えば私は、ビジネスモデルを作る際に、自分が作成した「GPTs (=カスタム GPT、ジーピーティーズ。専門的なプログラミングスキルや知識を持っていないとも、自然言語を入力するだけで簡単にアプリが開発できる機能)」をよく使っています。私が作成した GPTs は、業種を入力するだけで、ビジネスモデルまで作ってくれるものになっています。

— どういうプロンプトになっているのですか？

大野:例えば、私がビジネスモデルの相談を受けた際に、私が行う思考のプロセスを言語化したようなものになっています。指示自体は非常にシンプルで、例えばビジネスモデルの検討では最初に外部環境の分析をするのですが、その分析を PEST 分析で行うよう指示しています【写真 (左)】。

例えば、一般の会計事務所では、私が満足できるレベルで PEST 分析を行える人材は多くはありません。しかし ChatGPT ならば、一定のレベルのものを一瞬で作成してくれます。

ChatGPT は PEST 分析について、すでに学習済みなのです。

— 学習済み・・・ですか？

大野:そうです。PEST 分析という分析手法が

どのようなものなのかを、ChatGPT は理解しています。

ChatGPT は世の中にあるさまざまな知識を学習しているので、特に何も教えなくても、PEST 分析をどのように行い、どのようにアウトプットすれば良いのか分かっています。その上で、アウトプットを変更したかったら、「出力形式を“機会”と“脅威”に分けてください」などと伝えていけばいいのです。

— ChatGPT が出す PEST 分析の分析結果は、大野先生がおむね期待するレベルのものになっていますか？

大野:そもそも生成 AI に常に 100% の成果物を求めるのはハードルが高いので、8 割方までやってくれれば良いと考えています。残りの 2 割は人間が仕上げるというのが、現時点では賢い付き合い方だと思います【スライド (右)】。おそらく今後は、私がやるよりも上手に PEST 分析をするようになるのでしょうけど、現段階ではまだ人間、特に専門家と呼ばれる人間の方が上手にできる部分があると思います。

— 一気が利いている人間が作るものは、やはり気が利いているということですね。

大野:そうですね。出てきたものを見て、「見せ方を変えた方がいいな」とか、「この部分はもうすこし掘り下げて検討した方がいいな」などと評価や判断をするのが、人力で行う残りの 2 割の作業です。

もちろん、自分たちの成果物として本当にこれが正しいものなのかといった確認も必要になります。先週お客様に会ったときと正反対のことを言っていたら問題ですし、組織の一員として自分たちが掲げるビジョンやミッションと異なる成果物を出すのも考えものなので、そこは人間が調整していくべきです。—ChatGPTがPEST分析を知識としてすでに知っているという話で思ったのですが、これまでのChatGPTは、例えば計算が不得意で、論理的思考ができないなどと指摘されていました。しかし、今使っていると、論理的思考を持っているようにしか思えない瞬間があったりします。それが非常に人間臭く感じる点でもあります。それは今のように学習した知識が増えている部分が大きいのでしょうか？

大野：学習ももちろん重要ですが、ChatGPTの考え方やそのアルゴリズムを、OpenAI社が日々莫大な資金を投じてチューニングしています。その成長スピードは、私たちが成長するよりも圧倒的に早いので、日々私たちは追いつかれています。ですから「ChatGPTにはハルシネーションがある」とか「論理的

に思考することはできない」と今考えているのであれば、それは大きな問題です。

この一年で状況は大きく変わりました。おそらくまた一年経ったら、さらに大きく変わっていくでしょう。ですから、日々使って認識を改めながら、付き合っていく必要があると思います。

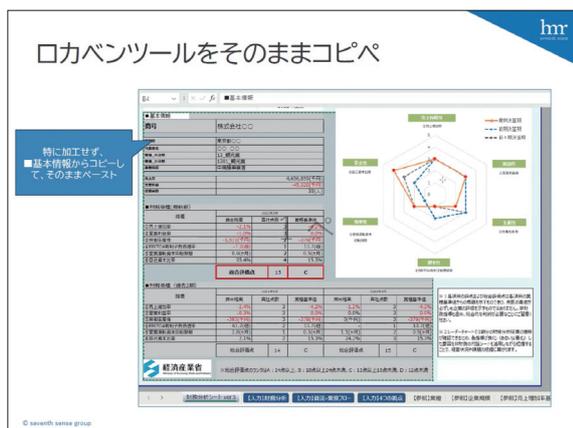
—ChatGPTは、どの程度の知識を持っていると考えれば良いのでしょうか？

大野：おおよそ英語圏で知られている知識は持っていると思います。英語圏の社会の中でどれくらい多くの人が知っている知識なのかと考えると、おおよそのあたりはつくと思います。

PEST分析やSWOT分析などは、多くの人が知っているため、ChatGPTは正しく扱うことができます。ただし、当たり前の話ですが、私が今日食べた朝食の内容などは、ChatGPTには答えられません。しかし、オバマ元大統領の好きな食べ物については、もしかしたら答えられるかもしれませんね。

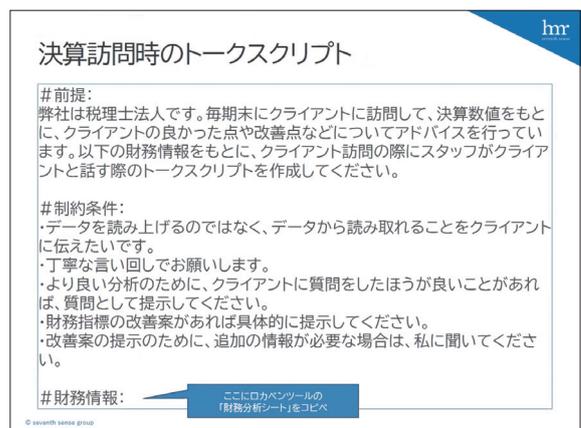
ChatGPTの使い方 決算訪問時のトークスクリプトを作成する

How to use ChatGPT



—ビジネスモデルの提案という事例をご紹介いただきましたが、ほかにもどのような活用事例がありますか？

大野：ChatGPTを自分たちの業務に活かしていくことは、今後大きな可能性を持っています。



その意味で言えば、経産省に「ローカルベンチマーク」というツールが掲載されているサイトがあります。この通称・ロカベンツールは、企業の経営状態を把握する、いわゆる「企業の健康診断」を行うためのツールで

す。ロカベンツール自体は以前からあるのですが、税理士ならば理解できるかもしれませんが、税理士事務所のスタッフがこの診断結果を見て顧問先にアドバイスできるかという点、正直難しいものになっています。

そこで、ロカベンツールが作成した診断結果を ChatGPT に貼り付けます【スライド（前ページ左）】。そして、「私たちは毎月末にクライアント訪問して、経営状況で良かった点や改善点をアドバイスしています。決算訪問時のトークスクリプトを作ってください」と伝えます。さらに「お客様に質問すべき点があれば提示してください」とリクエストすれば、質問事項も加えてトークスクリプトを作成してもらえます【スライド（前ページ右）】。

作成されたトークスクリプトでは、「売上増加率は少し落ち込んでいますが、業界全体も同じような傾向があるので、心配する必要はありません」とか「販売コストと運用コストを見直す機会かもしれません。これらのコストについて、何か最近変化がありましたか？」などと文案を考えてくれます。

一面白いですね。面白いというのは「心配ありません」と言ってる主体は一体誰なのか？という話です。

大野：そうですね。今後の社会はまさにそのようなものになっていくと思います。

先日私は、ある大学に ChatGPT の話をしに行きました。そこで学生に「ChatGPT を何に使っているのか」と聞いたところ、「ChatGPT を参考にしてレポートを作成している」と言っていました。おそらく丸写ししているのだと思います（笑）。横に教授がいたのでそれを伝えたら、その教授も「私も課題を考えるのに、ChatGPT に手伝ってもらっている」と話していました。

つまり、何が起きているかということ、ChatGPT が考えた課題を ChatGPT が解いて、単位は人に与えられるということです。評価の行き先は必ず人間になります。これはビジネスでも同じで、ChatGPT が「心配ありません」と言ったとしても、それを伝えるのは人間なので、クライアントからいただく評価や満足感は、そのスタッフや事務所に与えられることになります。これがツールを使いこなすということだと私は思います。

こうしたことを、ズルく感じる人もいるかもしれませんが、私たちはこれまでも同じようなことをしてきました。簿記のルールを

自分で考えた人はいませんが、私たちはそうした先人たちの知恵や知識に乗っかって仕事をしています。それと同じように、今使える知識やテクノロジーがあるのなら、それを使わない手はないと思います。自分で考え出したものだから素晴らしいという考え方もあるかもしれませんが、現実社会はそうした考えに合わせてくれません。

来年くらいには、ChatGPT で課題を解いて単位をもらった学生たちが社会に出てきます。彼らは私たちがやっているのを見て、「先輩、何考えてるんですか？ 考えるのは AI にやらせればいいじゃないですか？」と言ってくるかもしれません（苦笑）。ちょうど Excel の計算結果を電卓で検算し直していた先輩たちを見て、私たちが呆れていたのと同じようなことが、今後は起こるわけです。—大学の論文や作文に ChatGPT を使うという話が問題になっていましたが、すでに現場ではそこに問題意識もなくなってきているんですか？

大野：結局、それはイデオロギーの問題だと思います。もちろん教育というのは人の人格や能力を形成していく過程ですから、なんでもかんでもツールを使えば良いというわけではないと思います。

しかし、社会に出れば四則演算の能力はそれほど重要なものではなく、ビジネスの世界はイデオロギーに関係なく、自由競争で戦っていく世界になっています。そのときに、人間の頭で考えたものが素晴らしいなどというイデオロギーはまったく役に立たなくて、人間と AI が一緒に考えれば最も良い結果が得られるのであれば一緒に考えるべきですし、人間が考えるより AI が考えた方が素晴らしい結果を生み出せるなら、AI に考えてもらった方が良いでしょう。

—なるほど。そうした状況の中で、セブンセンスグループさんでは今、組織として ChatGPT を使っている業務や領域はありますか？

大野：組織として皆で使っているわけではなく、私や私の周囲で少しずつ活用が広がっているというのが現状です。

組織として使うのであれば、リスクもあるため、スタッフの AI リテラシーなども教育していかなければなりません。また、先ほどのイデオロギーのようなものもありますし、絶対に使いたくないという人もいますので、そこはまだまだ過渡期なのだと思います。

—アウトプットされたものがそのまま使えるわけではない。そこに評価だったり判断だったりが必要になるから、皆で使うにはリスクがあるという懸念がありますか？

大野：それはありません。コンピューターとして見るからそういう話になるのだと思います。例えば自分の部下が一度ミスをしたからといって「使えない」とはなりませんよね。それと同じで、ChatGPTが間違っているな

ら「違うよ」と教えてあげればいい。

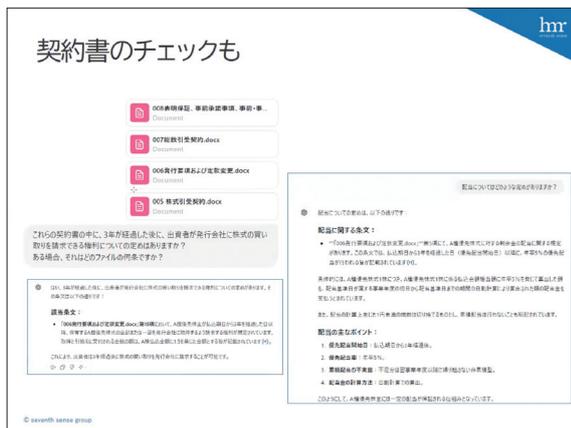
これは私たちの成長のチャンスでもあると思います。私自身も以前は、部下に対して「私の言いたいこと分かるよね？」という感じで、空気を読んで行動することを強いてきたきらいがあったのですが、ChatGPTと付き合い始めてからは丁寧な指示の出し方になったと自分では感じています。

ChatGPTの

使い方

How to use ChatGPT

契約書をチェックする



—ほかの事例を教えてください。

大野：スタートアップとVCで資金調達絡む契約書の中で、スタートアップ側に不利な条文がないかを検討する際に、ChatGPTに契約書を読み込ませて探してもらおうと、不利な条文を指摘し、「より良い条文の提案はこうです」などと提案してくれます【スライド】。

—自分のアシスタントのようにChatGPTを使えるわけですね。でも、ChatGPTを優秀なアシスタントとして使うには、使う側も優秀でなければならないですね。だから言ってしまう、優秀な人にしか優秀なアシスタントがつかないということになってしまいますね。

大野：そうですね。例えば、いくらChatGPTに有利になる条文を提案されても、それをそのままクライアントに提案するわけにはいきません。そんなことをしたら、「ようやくVCから資金を調達できるどころなのに、こんな条文を入れたら破談になってしまう」とクレームが来るでしょう。

このような判断は、おそらくChatGPTには難しいと思います。なぜなら、日本のスタートアップとVCとの力関係や日本特有の商慣習などは、米国生まれのChatGPTには理解しにくいものだからです。

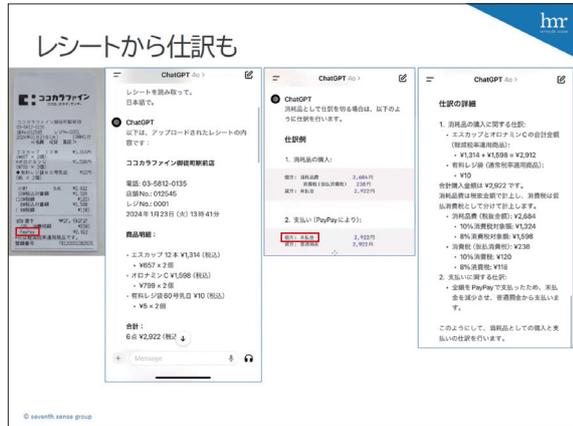
そうした背景を考慮しながら最終的な判断を下すのは、やはり人間の役割になります。

こんな仕事は
ChatGPTでちゃちゃと
やってくれ!

ChatGPTの 使い方

How to use ChatGPT

レシートから仕訳する



大野: 数字が絡んだ作業では、レシートの情報から仕訳作業も行ってくれます【スライド】。

今回は消耗品費として仕訳してもらったのですが、興味深かったのは PayPay 払いだったから、未払い金として仕訳されていた点です。「PayPay」とレシートに書いてあるから、現金払いではなく未払い金として ChatGPT は処理しています。

しかし、PayPay はチャージしてから使うものなので、正確には仮払金や預け金などの科目を使った仕訳になります。PayPay 決済は日本でしか使われていないので、ChatGPT は PayPay がプリペイドであることを理解していないのです。それでも、一瞬でレシート

の「PayPay」という記載を見逃すことなく、仕訳しています。

こうした間違いがあるから「ChatGPT は信用できない」とはなりません。知らないのなら、PayPay は先払いだと ChatGPT に教えてあげればいだけだからです。一度、教えてあげれば、それから先は正しい処理してくれるようになります。

一どのように教えればいいのか？

大野: 今は ChatGPT に「メモリー」という機能があり、文字通り、ChatGPT が記憶していく機能があるので、それを使えばいいと思います。

例えば「私は、ピザが好きだから覚えておいて」と話せば、ChatGPT はそれを覚えておいてくれます。今まではチャットのスレッドを変えるとこうしたことは忘れてしまっていたのですが、メモリーすれば「このユーザーはピザが好きだ」ということをいつまでも覚えておいてくれます。メモリーを消したいと思ったら、メモリーのマネジメントというがあるので、そこで「Forget」ボタンを押せば忘れてくれます。

これは便利な機能ですが、話している間にいろいろなことを覚えてしまうので、私はメモリーはオフにしています。

ChatGPTの おまけの使い方

How to use ChatGPT



一仕事に限らず、ChatGPT のユニークな使い方があれば教えてください。

大野: 例えば飲食店でランチメニューを撮影し「英語にしてください」と頼めば、英語に翻訳してくれます。「さっぱりとしたものはどれ？」と尋ねれば、メニューの中からおすすめの料理を教えてください。また、調味料がテーブルにあれば、「どの調味料が合う？」と聞くこともできます【スライド】。日本でやっているのでも価値がわかりにくいかもしれませんが、例えば、食文化の異なる海外でこういった使い方をすれば、とても便利だと思います。

一なるほどですね。ChatGPT はまだまだいろいろな使い方ができそうですね。今回も貴重なお話をありがとうございました。■